

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／小汐 千春

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科研費については現在申請中である。採択された場合はもちろんのこと、採択されなかった場合も、研究にいそむことこそが一番大切であると認識している。科研費申請というのは、あくまでも研究にいそんだ結果として必要になる経費を申請するのであり、研究なくして科研費申請はあり得ない。従って、科研費申請に向けて、というのであれば、あくまでも現在行っている行動生態学の研究(具体的にはsexual conflictおよび雌雄間のchase-away processを伴うantagonistic co-evolutionの研究)を行うこと、そのためには、万難を排することを第一の目標としたい。

2. 点検・評価

Sexual conflictおよび雌雄間のchase-away processを伴うantagonistic co-evolutionの研究をさまざまな個体群に関して調査し、成果を得た。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

良い研究を行い、良い論文を書き、良い学会発表を行っていれば、おのずとそれが宣伝となって本大学院への進学を希望する学生が集まるものである(実際、これまでもそのような形で希望してきた学生は複数いた)。従って、我々教員が第一になすべきは良い研究を行ってそれを公表していくことである。

2. 点検・評価

質の良い研究をめざして行き、他大学でのセミナーや学会発表などを通じてその成果を公表した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

講義や演習、学生実験、セミナー、卒業研究や修士の課題研究等を通じて、大学生や大学院生に自然科学の深い知識と科学的思考を身につけさせるようにする。

2. 点検・評価

講義・学生実験・セミナー等を通じて学生の指導を行うとともに、卒業研究や修士の課題研究についても、指導学生かどうかを問わず広くアドバイスをを行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

これまで通り、昆虫類を用いたsexual conflictおよび雌雄間のchase-away processを伴うantagonistic co-evolutionの研究(フィールド調査や室内実験など)を行い、学会発表・論文作成につとめる。

2. 点検・評価

昆虫の配偶行動に関する論文1本がaccept済みであり、また、1本は投稿中、2本執筆中である。また、国際学会・国際シンポジウム・国内での全国大会で成果を発表した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

何らかの委員や入試関係の仕事がきたときには、責任持って遂行する。また、外部への情報発信の場としての生物学教室のウェブサイトを随時更新し、充実をはかる。

2. 点検・評価

大学院入試関係、振興会理事、コースの会計としての仕事を適切に遂行した。生物学教室のウェブサイトも随時更新した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

専門分野におけるさまざまな問い合わせや講演依頼・査読依頼が来た場合は適切に対応する。日本鱗翅学会の評議員として、また、日本動物行動学会の会計監査として学会運営に寄与する。

2. 点検・評価

2012年中は日本鱗翅学会の評議員としての仕事および日本動物行動学会の会計監査の仕事を遂行、2013年に入ってから日本動物行動学会の運営委員としての仕事を行っている。また、日本鱗翅学会のホームページ運営委員として学会のHPの作成を手伝った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)